

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 11 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730498

研究課題名(和文)中国のスポーツと社会階層に関する調査 体育系学校の学歴取得と職業選択に着目して

研究課題名(英文)The research on sports and the social stratum in China: by a focus on the process of acquiring diploma and job selection in sports related school

研究代表者

池本 淳一 (ikemoto, junichi)

早稲田大学・スポーツ科学学術院・助教

研究者番号：90586778

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円、(間接経費) 750,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では重慶市の武術学校・体育学校・舞踊系芸術学校・普通学校の比較調査(アンケート)、重慶市と上海市の武術学校の比較調査(アンケート)を行い以下の点を明らかにした。

1. 都市の武術学校には農村部から多くの生徒が転入学してきていた。2. 彼らの保護者の大半が農村から都市への出稼ぎ労働者であった。3. 生徒たちは親の出稼ぎにともなって都市の武術学校に転入学してきた。4. 都市にやってきた後、生徒たちは武術学校の寄宿舎に住んでいた。これらの点は重慶市でも上海市でも同様であった。しかし重慶市では重慶市内の農村から重慶市内の都市部へ、上海市では他の省の農村から上海市の都市部へとやってくる傾向が見られた。

研究成果の概要(英文)：This study investigates the tendency of students in Wushu(Chinese martial arts) school, and the difference and sameness of this school between coastal and inland area in China. In particular, this study undertook a series of quantitative and comparative research about Wushu schools, sports school, art and dance school, and normal school in Chongqing. In Chongqing and Shanghai, the Wushu schools were the research objects. The findings of this study are as follows;

1) Students of Wushu school in the city almost came from village. 2) Their parents are largely migrant workers moving from rural to urban areas. 3) Students came to city along with their parents. After moving to cities, they entered Wushu schools, and start to live in the dormitory of the school. These three results are found both in Chongqing and Shanghai. However, students who move to urban area in Chongqing mostly came from rural area in Chongqing, on the other hand, students who move to Shanghai mostly came from other provinces.

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：中国 武術 教育 社会階層 スポーツ

1. 研究開始当初の背景

研究代表者・池本淳一は博士論文及び単著論文「現代中国におけるスポーツと社会階層都市の武術学校への転入学者を事例に」(2010年5月、関西社会学会編『フォーラム現代社会学』第9号)にて、中国の武術学校(スポーツ化した中国武術である「競技武術」を教える私立体育専門学校、学校類型としては職業学校に属する)に関する質的研究を行った。これらの研究では以下の点が明らかにされた。

- 一、大都市の武術学校には遠く離れた農村から多くの児童が転入学している
- 二、彼らの保護者は子どもを連れて都市から出稼ぎにきた農民工層である
- 三、武術学校が彼らの子どもの都市での転入学先兼滞在先となっている

加えて、この三点が生じた背景として以下の点を指摘した。

- 一、農村の義務教育の荒廃
- 二、都市の公立・私立学校への転入学の困難
- 三、都市での子どもの養育環境の未整備

さらにこれまでの研究では、この背景自体を生み出した問題として、戸籍制度に起因する都市・農村格差及び社会的排除を指摘し、現代中国における階層構造が武術学校と農民層・農民工層子弟を結びつけていることを指摘した。加えて地域・階層間格差や社会的排除によって十分な教育機会を得られない農村出身者に対して、競技武術に代表されるスポーツ教育が補完的な進学・職業選択のルートを提供しているという知見を得た。

しかしこれまでの研究は、参与観察としては陝西省西安市の中堅校・A武校と甘肅省蘭州市の小規模校・B武校という、内陸部・西北地域の2校のみをフィールドとしたものであった。またインタビュー対象者も、両校の生徒及び上海市の武術専攻の大学生・合計28名のみであった。

それゆえこれまでに得られた知見を全国の武術学校全体に一般することも、また武術学校の生徒全体に一般化することも困難であった。さらに調査対象が武術学校に限定されていたために、これらの知見が武術学校のみには当てはまるのか、それとも体育系学校一般には当てはまるのかについても明らかにすることができなかった。

これらの点が、研究開始当初における残された課題であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、学校比較及び地域比較を通じて、これまでの武術学校に対する質的調査で得られた知見を計量調査によって実証することである。

この目的のために、本研究では第一に武術学校、体育学校、舞踏系芸術学校、普通学校を対象校とした学校比較調査を実施した。第二に内陸部・西南地域の代表的な都市である重慶市と沿岸部の代表的な都市である上海市をフィールドとした武術学校の地域比較調査を実施した。

3. 研究の方法

重慶市と上海市の武術学校、体育学校、芸術学校(舞踏科をメインとする学校を選択)の質問紙調査(全数調査)を実施し、各校の生徒の回答傾向を比較する。同時に普通学校にも質問紙調査(標本調査)を実施する。

普通学校を標本調査としたのは、通常、普通学校の規模はこれらの体育系学校よりも大きく、調査の期間・費用・人材面で全数調査が困難なためである。

なお主な質問項目は以下の通りである。

出身階層、出身地、本人及び両親の戸籍、現在までの移住経験、家族・同居者の構成、両親の出稼ぎ及び移動経路、将来の移住計画、進学・就職希望、専門選択理由。

4. 研究成果

(1) 調査概要

重慶市調査概要

2011年12月25日~2012年1月8日まで重慶市内の武術学校・体育学校・芸術学校に対する全数調査、普通学校に対する標本調査を実施。結果、武術学校225票、体育学校131票、芸術学校656票、普通中学・高校702票、合計1714の有効サンプルを得た。

なお普通学校の標本調査は現地との相談の結果、各学年から100票の有効サンプルが得られるように調整した。結果、中学2年生が151、高校2年生が58となってしまったものの、他の学年は100前後の有効サンプルを得ることができた。

上海市調査概要

2012年12月21日~2013年1月4日まで上海市の武術学校・体育学校・普通学校で質問紙調査を実施。結果、武術学校1044、体育学校243、普通学校397、合計1684票の有効サンプルを得た。

武術学校については2校を対象に、全数調査を実施することが出来た。

一方、上海市では調査対象として適切な芸術学校を選定することができなかったために、上海では芸術学校は調査対象から除外する結果となった。加えて普通学校では十分なサンプリングを行うことができず、学年ごとに有効サンプルに大きな偏りが生じてしまった。さらに体育学校も重慶市の体育学校と同様の性格を持つ学校を選定することはできなかった。

これらの問題の多くは調査当時の社会情勢に起因するものであったが、これらの制限により、武術学校のみが地域比較が可能なお

象となった（なお上海市の普通・体育学校の調査上の位置づけについては目下検討中である）。

(2) 調査結果

重慶市における学校比較調査

一、芸術学校・普通学校の農村出身者は3分の1以下であり、武術学校・体育学校の生徒は3分の2以上であった（表1-1）。

表1-1 出身地別

	農村部	都市部	合計(人)
武術学校	61.5	38.5	192
体育学校	65.3	34.7	124
芸術学校	23.9	76.1	577
普通学校	28.1	71.9	584
合計	33.9	66.1	1477

$\chi^2 = 154.153$ (df=3), $p < 0.01$

二、現在の専門選択理由でもっとも多かったのは、武術学校で「両親が勤めた」、体育学校で「体を動かすことが好きだから」、芸術学校で「この専門が好き」であり、武術学校の生徒の多くが両親の勤めで転入学してきたことが確認された。（図1-1、1-2）

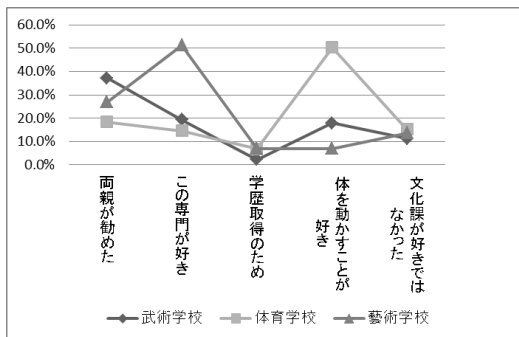


図1-1 専門選択理由

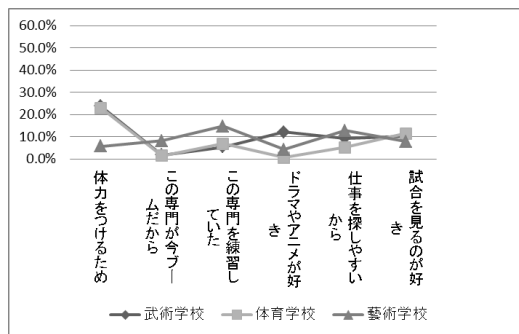


図1-2 専門選択理由

三、子ども連れでの出稼ぎは、他の学校よりも武術学校の方が多く、さらに学年の上昇とともに増加する傾向が見られた（図1-3、図1-4）。

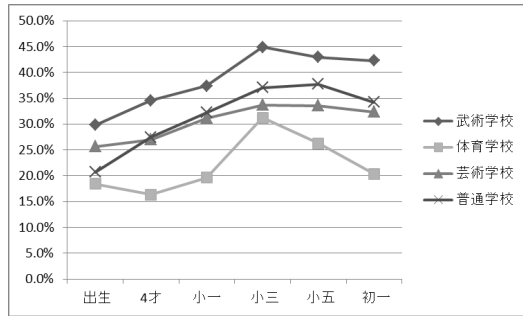


図1-3 父親 子連れ出稼ぎ率の推移

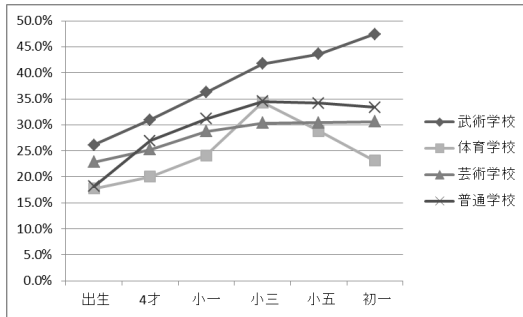


図1-4 母親 子連れ出稼ぎ率の推移

四、他の学校と比べて、武術学校の生徒は幼少期から寄宿生活をおくる割合が一貫して高く、また年齢とともにその割合が増加する傾向が見られた（図1-5）。

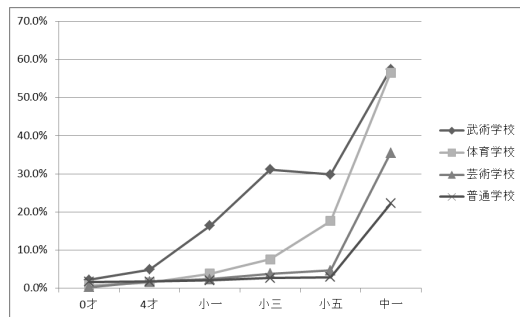


図1-5 寄宿舎居住率の推移

五、父親の現在の職業階層は、武術学校では「労働」「私営業主」「販売」「个体戸」が、体育学校では「労働」「サービス」「販売」が、芸術学校では「个体戸」「私営業主」「専門」「販売」が、普通学校では「専門」「事務」「労働」が10%以上となっていた。（図1-6）

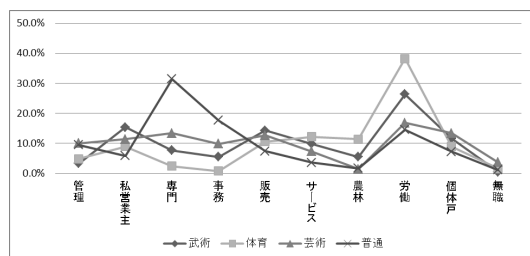


図1-6 父親 職業10分類

これらの結果から、武術学校の生徒の特徴として、農村出身者が多いこと、しかし幼少期から両親の出稼ぎに伴う形で都市に移住していること、都市移住後は両親はブルーカラー労働や自営業に従事していること、一方で子どもは両親の勧めで武術学校に転入学して寄宿生活をおくっていることが明らかとなった。

重慶・上海の武術学校の地域比較
重慶市・C武校と上海市・D武校及びE武校には、以下の共通性と相違点が見られた。

一、全校とも生徒の9割以上が男子(表2-1)、8割以上が出生時に農村戸籍(表2-2)、97%以上が漢族、約3割が一人っ子であった(表2-3)。

表2-1 生徒の性別

	男性	女性	合計(人)
C武校	90.5%	9.5%	221
D武校	91.6%	8.4%	488
E武校	94.0%	6.0%	568
全体	92.5%	7.5%	1277

$$\chi^2 = 3.717 \quad (d.f.=2) \quad p < 0.16$$

表2-2 出生時の戸籍

	農村戸籍	都市戸籍	合計
C武校	83.8%	16.2%	179
D武校	81.6%	18.4%	315
E武校	85.9%	14.1%	425
全体	84.0%	16.0%	919

$$\chi^2 = 2.491 \quad (d.f.=2) \quad p < 0.3$$

表2-3 兄弟姉妹の合計数

	一人っ子	1人	2人以上	合計(人)
C武校	33.2%	38.6%	28.2%	220
D武校	32.4%	49.3%	18.3%	491
E武校	30.4%	48.4%	21.2%	576
全体	31.6%	47.1%	21.3%	1,287

$$\chi^2 = 11.536 \quad (d.f.=4) \quad p < 0.05$$

二、全校とも農村部出身者が6~7割を占めていた(表2-4)。しかし重慶のC武校では本市(重慶市)出身者が7割以上であったのに対して、上海のD・E武校では本市(上海市)出身者が2割前後であった(表2-5)。

表2-4 出身地域

	農村部	都市部	合計(人)
C武校	61.5%	38.5%	192
D武校	68.6%	31.4%	433
E武校	76.4%	23.6%	516
全体	70.9%	29.1%	1,141

$$\chi^2 = 16.862 \quad (d.f.=2) \quad p < 0.01$$

表2-5 出身省

	本市	外省	合計(人)
C武校	72.4%	27.6%	192
D武校	22.2%	77.8%	433
E武校	19.4%	80.6%	516
全体	29.4%	70.6%	1,141

$$\chi^2 = 207.027 \quad (d.f.=2) \quad p < 0.01$$

三、全校とも都市部の居住率は学年を経ることに増加傾向にあった(図2-1)。一方、出身省を離れて他の省に移動していった割合は、上海のD・E武校が年齢とともに高くなっていくのに対して重慶のC武校にはそのような傾向は見られなかった(図2-2)。

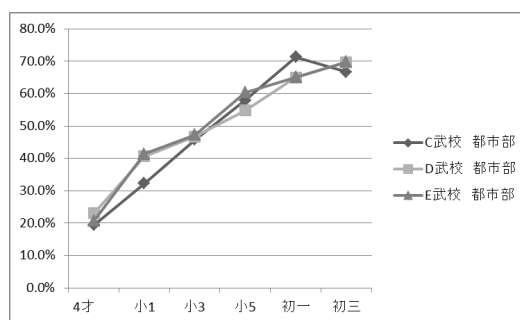


図2-1 都市部の居住率

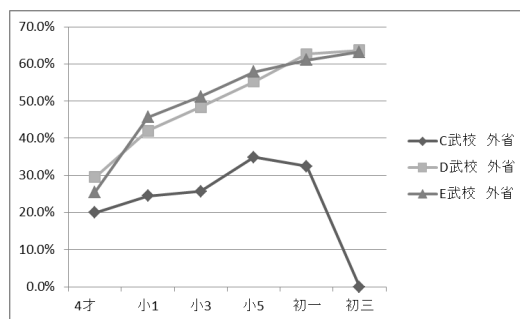


図2-2 外省の居住率

四、父親の職業階層は、C武校では「労働」(26.4%)「私営業主」(15.4%)「个体戸」(11.5%)「販売」(14.3%)、D武校では「个体戸」(32.8%)「労働」(16.3%)「私営業主」(16.3%)「販売」(14.0%)、E武校では「个体戸」(24.3%)「労働」(22.2%)「私営業主」(14.6%)「販売」(10.9%)の順に多かった。

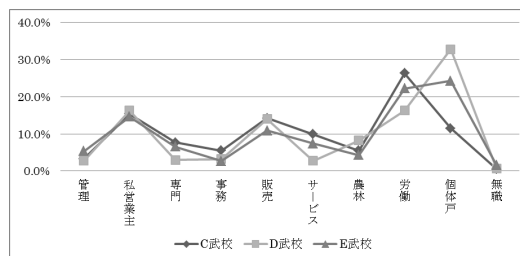


図2-3 父親 職業 10分類

五、全校とも両親が以前からずっと都市戸籍者であったのは1割前後であった(表2-6、2-7)。しかし現在、両親が都市戸籍者であるのは重慶のC武校では5割前後、上海のD・E武校では約3割であった(表2-8、2-9)。

これらの結果から、一部の親が農村戸籍から都市に戸籍を変更し、またその傾向は重慶市で顕著であることが確認された。

表2-6 父の以前の戸籍

	農村戸籍	都市戸籍	合計(人)
C武校	81.0%	19.0%	174
D武校	90.2%	9.8%	307
E武校	88.7%	11.3%	362
全体	87.7%	12.3%	843

$2 = 9.279$ (d.f.=2) $p < 0.05$

表2-7 母の以前の戸籍

	農村戸籍	都市戸籍	合計(人)
C武校	82.9%	17.1%	164
D武校	90.4%	9.6%	302
E武校	89.5%	10.5%	361
全体	88.5%	11.5%	827

$2 = 6.416$ (d.f.=2) $p < 0.05$

表2-8 父の現在の戸籍

	農村戸籍	都市戸籍	合計(人)
C武校	47.7%	52.3%	174
D武校	68.1%	31.9%	307
E武校	68.2%	31.8%	362
全体	63.9%	36.1%	843

$2 = 25.072$ (d.f.=2) $p < 0.01$

表2-9 母の現在の戸籍

	農村戸籍	都市戸籍	合計(人)
C武校	53.0%	47.0%	164
D武校	67.5%	32.5%	302
E武校	69.0%	31.0%	361
全体	65.3%	34.7%	827

$2 = 13.689$ (d.f.=2) $p < 0.01$

六、全校とも、両親の七割前後が生徒の出身地以外の都市で働いていた(表2-10、2-11)。

表2-10 父の現在の職場

	私の出身地	農村	都市	国外	その他合計(人)
C武校	21.5%	4.1%	69.2%	0.5%	195
D武校	14.2%	7.3%	75.4%	0.9%	422
E武校	14.4%	8.3%	74.0%	0.7%	457
全体	15.6%	7.2%	73.6%	0.7%	1074

表2-11 母の現在の職場

	私の出身地	農村	都市	国外	その他合計(人)
C武校	22.2%	3.2%	62.7%	1.6%	185
D武校	13.9%	6.8%	72.6%	0.7%	424
E武校	14.6%	8.7%	71.5%	0.2%	439
全体	15.6%	7.0%	70.4%	0.7%	1048

七、全校とも生徒の父親が彼らを持って出稼ぎに出る割合は高く、また学年を経るごとに上昇する傾向が見られた。しかし上海市のD・E武校ではその傾向がより顕著であった。

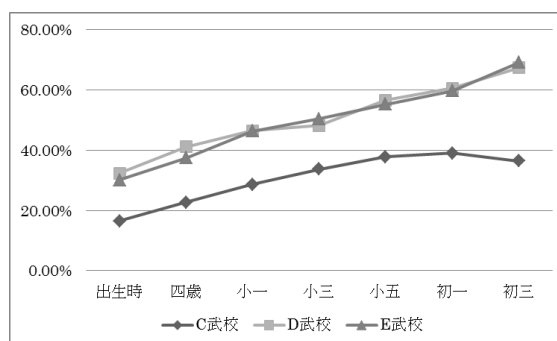


図2-4 父親の子づれ出稼ぎ率

これらの結果から、重慶市・上海市ともに武術学校では漢族・男子・非一人っ子・農村出身・農民/農民工層出身の生徒が多いこと、生徒の大半が親の出稼ぎに合わせて都市に連れてこられたことが確認された。

しかしその移動は重慶市では重慶市内の農村部から都市部への移動であり、上海市では省外から上海市への移動であること、親の農村戸籍から都市戸籍への変更は重慶市に顕著であること、出稼ぎにともなう向都移動の傾向は上海市の方が顕著であること等の地域差が確認された。

(3) 結論

これらの学校・地域比較を通じて、以下の点が実証された。

学校比較を通じて、農村部からの転入生が多い、保護者の多くが農民工、保護者の出稼ぎに伴った向都移動、都市移動後は武術学校での寄宿舎生活、といった武術学校特有の特徴が確認された。加えてこれらの特徴は地域性を超えたものであることが明らかとなった。

一方、地域比較を通じて、生徒の向都移動は内陸部では内陸部の農村から内陸部の近郊都市への、沿岸部では省外の農村から沿岸部の都市への移動となる傾向が見られ、さらに保護者の出稼ぎに伴う生徒の向都移動は沿岸部により顕著であることが確認された。

これらの知見から、これまでの質的研究で

確認された武術学校の特徴は、武術学校に特有のものであることが確認された。加えて、武術学校と農民層・農民工層子弟の結びつきは地域性を超えたものであり、それゆえ中国全体の戸籍制度や階層構造に結びついた問題であることも確認された。しかし生徒の向都移動の傾向及び頻度は、武術学校の所在地の地域性や都市規模に左右されることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

1. 池本淳一、「現代中国城市與武術文化的再生産—以武術學校與各類學校的比較為例—」, 2012年10月、台湾身体文化学会編『運動文化研究』第20期、71項~92項、査読有
2. 池本淳一、「武術学校のエスノグラフィ—再生産戦略とアイデンティティ構築の視点から—」, 2013年9月、日本社会学会編『社会学評論』254号、169~186頁、査読有

[学会発表](計4件)

1. 池本淳一、「現代中国の農民層とスポーツ—農村から都市の武術学校への転入学を事例として—」, 2011年6月26日、日本スポーツ社会学会(成蹊大学)
2. 池本淳一、「中國傳統身體文化的現代化與資本化;以從鄉村公立小學轉移到大城市武術學校的學生為例—」, 2012年4月7日、2012北港媽祖節慶與文化國際學術研討會、台湾身体文化学会(台湾)
3. 池本淳一、陳宝強、「現代中国におけるスポーツと社会階層—各種体育系学校の比較調査を通じて—」, 2013年6月2日、日中社会学会(成城大学)
4. 池本淳一、「伝統的身体/文化資本与移動的戦略—重慶/上海の武術学校為例—」, 2014年3月14日、"THE NINTH ANNUAL CONFERENCE THE ASIAN STUDIES ASSOCIATION OF HONG KONG (香港)

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

[その他]なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

池本 淳一(IKEMOTO, Junichi)
早稲田大学スポーツ科学学術院・助教
研究者番号: 90586778

(2)研究協力者

陳 宝強(Chen Bao Qiang)
西南大学体育学院・講師(中国)